

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 萩原 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「書くこと」に関する思考力・判断力・表現力がよく身に付いている。
	よくできた問題	・図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題 ・必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができるかどうかをみる問題
	努力が必要な問題	・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題

算数	全体的な傾向や特徴など	算数科に関する思考力・判断力・表現力（日常の事象を数理的に捉える力、見通しをもち筋道を立てて考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表す力など）がよく身に付いている。
	よくできた問題	・示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる問題 ・伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題 ・示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題
	努力が必要な問題	・台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題 ・百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる問題

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「自分にはよいところがあると思いますか」の問いに対して90%以上の児童が肯定的に回答している。また、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに対しても約90%の児童が肯定的な回答をしており、どちらも全国平均を上回っている。 ・クラス全員分の「友達のいいところ」コーナーを掲示し、パートナーを決めていいところ見つけを行うことで、定期的にクラス全員分のいいところが新たに掲示される取組など、各クラスで自尊心を高める工夫を行ったことが、上の結果につながったと考える。 ・「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という問いに対しては、市が目標とする「週3日以上」と答えた児童の割合が全国と比べて低くなっている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・国語については漢字、算数については図形の性質など、基礎・基本が身に付いていない部分があるので、これまでの取組に加えてドリルアプリを有効に活用する方法を探る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・今後も、デジタル機器の安全な使い方等のテーマで講師を招聘し、児童と保護者で学ぶ機会を設ける。
・引き続き中学校と情報交換を行うことで、共通理解の基に学力向上やよい生活習慣の定着につなげる。